

2023年5月23日

学校法人三幸学園
仙台こども専門学校
校長 梅田 一成 殿

学校関係者評価委員会
委員長 平山 乾悦

学校関係者評価委員会実施報告

2022年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 平山 乾悦 (NPO みやぎ・せんだい子どもの丘 理事長)
- ② 小山田 由衣 (第2期卒業生 社会福祉法人银杏会 バンビの森保育園)
- ③ 小川 智子 (社会福祉法人青葉福祉会 八木山あおば保育園 園長)
- ④ 茂呂 章人 (学校法人三幸学園チャイルドケア事業部 専門課長)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2023年5月23日 (会場 仙台こども専門学校 会議室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2022年度 学校法人 三幸学園 仙台こども専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 津脇 俊

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 平山 乾悦

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、保育分野の学校として「こどもを育み、人・社会を活性化することで日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、保育分野として「皆から信頼・感謝されるこどもの未来を育む人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

・学習障害や発達障害のある学生への支援と対応について

生徒へのカウンセリングの促しは継続的に行った。教員とカウンセラーとの連携を強め、より適切な対策を模索したことにより個々人に適した授業展開が出来た。

・卒業後の状況確認について

卒業後のサポートの一環として就職先と卒業生への状況確認を行った。相談相手がわからず悩んでいる卒業生もいた為、相談しやすい環境や仕組みづくりをし、サポート体制を整えていきたい。

② 学校関係者評価委員会コメント

平山委員：卒業後の状況確認について引き続き進めていただきたい。地方に存在する育成校としては、卒業後に首都圏に行くのではなく地元就職が出来ると良いと感じる。また今働いている卒業生に現場で働くアドバイスを貰える機会があると良いと思う。

小川委員：引き受ける身としては、色々と学ばせていただいて園のほうでもサポートできるように取り組みたい。若手が多く相談しやすい環境ではあるが、答える側の経験や準備が足りない部分もある。学校に相談を聞いてもらっているという卒業生がいるため、在学時ではどんな学生だったか幅広くやり取りし、職員の成長のために園と学校が連携を取っていけると良い。

小山田委員：卒業後も学校と関わりが続くことによって様々な相談が出来るため、関わる機会を今後も作っていけると良いと思います。

茂呂委員：メンタルが弱い職員が増えた。発達障がいや学習障がいをもっている方が就職する前に、学校はどのような対応をしていたのか確認できると、就職後にアプローチしやすい。受け入れ時により密な連携をとれると良いと感じている。仙台こども専門学校の卒業生は学校に対して愛着や感謝の気持ちが強いため、比較的学校に相談をしている様子が伺える。日ごろの学生生活での関わりの大切さを感じている。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

・理念や目標の設定、周知までは適切であるが、その浸透度合いについては伸びしろがある。

② 今後の改善方策

・引き続き、重ねて理念に触れ、どのような状態を目標とするのか具体的に考える機会を設ける。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

小川委員：卒業生を見ていると大事にして育てられてきたように感じる。教育理念を理解されていて、浸透していることがわかる。良く浸透している為、保護者へ学校のルールについてどのように伝えているかを教えてほしい。

新井さん：以前は学科ごとに保護者を集めて、入学前オリエンテーションを行っていた。コロナ禍になってからは入学前にオンデマンドで学校についての説明を視聴できるようにしている。その後、不明点などはアンケートを取り個別対応をしている。

津脇さん：オープンキャンパスなどで保護者への説明は行っている。入学してからは行事を見に来る保護者でない限りなかなか伝える機会はないのが現状である。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

・コロナ禍も重なり、学園独自の学習システム(SankoGate)を例年以上に活用してきたが、今後コロナが落ち着いてくると使用頻度が下がることが予想される。学生にとって便利になり、効率化された部分については継続していく必要がある。

・システムについてまだまだ使いこなせていない部分も多くあり伸びしろあると感じている。

② 今後の改善方策

・システムについての知識を教職員が学び続けること。業務の取捨選択をしっかりと行うこと。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

平山委員：青森の高校生が仙台こども専門学校に入学し、卒業後は関西で働くということは珍しいことではないため、仙台や東北の特色を大事にして就職の斡旋が出来ると良い。また、仙台こども専門学校においては教職員の研修は充実していると聞いているが、実際に研修はどのようなことを行っているのか？

伊勢さん：全体では実務研修や指導力の向上を目的とした研修を年に2回行っている。その他には階層別研修や任意で参加できる研修、IT基礎研修なども3年前からスタートしている。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

・単位制になり、再履修者や履修科目を選択する生徒が増えた為、その適切な管理が求められる。

② 今後の改善方策

- ・履修管理表を作成し、全体周知する
- ・生徒への伝達方法の一本化(SankoGate)

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

茂呂委員:様々な生徒がいる中、授業準備や管理をしっかりと気にされている専門学校の体制は素晴らしいと感じる。今後も継続して意識が出来るが良い。

小川委員：現場でも様々な園児の管理が必要になる為、まずは学生のうちから自己管理を出来るようになると良い。

関連分野における実践的な職業教育の評価が前年度よりも上がっているが、何か工夫や取り組みを行った結果なのか？

新井さん：取り組みとしては、コロナ禍前を意識し、生徒へ産学連携のイベントを周知する回数を増やした。それ以外の大きな要因は仙台地区が全体的にコロナに対しての意識が変化し、学生へのボランティアやインターンシップの案内が増え、生徒へ斡旋出来る数が根本的に増加したことが考えられる。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・保育分野外へ就職希望の生徒への就職斡旋やフォローが出来なかった。
- ・ボランティア活動への促しや参加はできているが、評価までの実施は出来ていない。
- ・目標喪失や人間関係で退学する生徒が多かった。

② 今後の改善方策

- ・就職活動における面接対策や就職斡旋については姉妹校と連携して行うとともに、各種説明会の案内の強化を行っていく。
- ・ボランティアを行った園へアンケートやヒアリングを行い、ボランティア活動の活躍や評価をいただく。
- ・クラス内での立ち位置や授業を受ける様子を把握することで生徒一人ひとりに合ったサポートを実施し、スクールカウンセラーと連携して退学防止に努めていく。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

小山田委員：退学をしたときは不安のまま働きに出ていると思う。若い方は意志が強いので専門学校の先生と生徒の距離感を近くできると良いと思う。

平山委員：サポートに関しては、実習巡回や就職先訪問だけでなく、ボランティアで受け入れてくれた園に対し実際にどうだったのか状況を聞き、卒業生や学生にフィードバックが出来るようサポートすることが大事。

茂呂委員：卒業後に関しては、連携という部分では遠慮せずに園のほうにも提案をしていただくと卒業生が嬉しく思う。

平山委員：首都圏では保育版リアル教育というのを文科省が始めた。現場の業務に実際に触れて理解を深めるため、新たに進めている。ボランティアは大変ありがたいが、アルバイトやインターンも現場が進めるべきだと感じている。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

・カウンセラーとの連携はできているが、近年対応が難しいケースが増えている。

② 今後の改善方策

- ・カウンセリングへの早期促し。
- ・保護者へのカウンセリング促し。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

小川委員：現場でも保護者対応が難しいケースも出てきているので、保護者のフォロー方法を検討していく必要がある。

平山委員：経済的側面に対する支援体制や奨学金などは以前に比べて増えているのか？

津脇さん：大枠変化はないが、災害など緊急の特別支援は行っている。国の修学支援制度を利用して入学

してくる生徒は増えてきている。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

- ・ボランティア参加者やインターンシップ実施者が少なかった。
- ・避難訓練を同じ校舎の2階保育園と合同で開催予定だったが、園でコロナが蔓延したため別々で開催した。

② 今後の改善方策

- ・園や施設からボランティア依頼やインターンシップ受け入れ可能の連絡をいただいた場合は、生徒へ積極的に案内する。
- ・今年度は合同避難訓練を11月に設定しており、教職員と生徒へ周知している。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

小山田委員:コロナが緩和して保育園は実習生の活気で溢れ、子どもたちも若い先生が大好きなのでイキイキしている。ボランティア先に卒業生がいると行きやすくなるため、その情報をプラスして学生さんに発信できると幅が広がるように感じる。

茂呂委員:ボランティアに関しては日々の保育やイベントに来ていただくと学校と現場の繋がりが増える。インターンシップに関して、趣旨を理解出来ていない学生がいた為、事前に学校の方で周知していただき、実りのある学習にして欲しい。

平山委員:イベント主催側からしたらボランティアに参加する学生がいると助かるし盛り上がる。さらには参加した学生は手ごたえを感じて帰っていく様子が伺える。ボランティアは行ったら楽しいよ、などを実際に行った学生から言っていたらとありがたい。

小川委員:ボランティアや体験実習が増えて、こちらも保育を見てもらえる立場になる。園も活気にあふれるし目的があるので、保育園は楽しい、先生たちは面白く遊ぶというイメージを持って学生が学校へ帰ってもらうことが必要。見学に来ていただく機会が多いと良い。

(7) 学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

・自分自身の意思だけでは進路活動を進められない高校生が増加しているため、保護者への後押しが必要。

② 今後の改善方策

- ・保護者の方の参加を促す資料の一斉発送や駐車場代一律補助を実施中。
- ・進路活動の早期化に対応できるような、中学生向けの学校説明を積極的に受け入れていく。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

平山委員：現場としては保育士資格を持っている人をより多く育ててもらえることはありがたい。人口減少の影響もあると思うが、広報活動を継続し保育分野を目指す生徒の育成をしてもらいたい。

津脇さん：仙台だけでなく全国的に保育分野を目指す生徒が減っているのは事実である。職業別希望者数も減っており、最近のネガティブなニュースの影響も少なからずある。しかし本気で保育分野を考えている生徒は毎年一定数いるので、大きな影響にはなっていないと考えられる。今後も保育の仕事の魅力を高校生に伝えていきたい。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第2次中期計画(2018年度～2022年度)の達成状況等の公開と同時に、第3次中期計画(2023年度～2027年度)を公開する予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

- ・教職員全員が法令について知っていること、正しい理解をしていることが必要である。
- ・多くの生徒、卒業生、入学予定者の情報を扱う学校として、全教職員が自覚と緊張感をもって業務にあたることが重要である。

② 今後の改善方策

- ・職員会議などで情報の取り扱いについて緊張感を高める喚起を行い、引き続き個人情報の取り扱いには十分に注意し、資料や情報が外部に漏れないよう徹底する。
- ・教職員で勉強会を実施するなど、常に知識のアップデートを行う。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

平山委員：年々情報の取り扱いについてのルールが厳しくなっているので、十分気を付けるようにするしかない。

小川委員：現場でも個人情報の持ち出し制限や、閲覧場所の限定など学校現場と同じように行っている。毎年厳しくなっている為、何か起きてから話をするのではなく、起きる前に研修などを行っている。

津脇さん：情報の持ち出しや持ち帰りの仕事などは気を付けているが、私物のおもちゃなどの持ち込みが多くあった。何か事故が起きた時には対応が難しくなるので、仙台こども保育園では私物の持ち込みは禁止にしている。

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

・コロナ禍における集客とイベント回数の確保

② 今後の改善方策

・コロナ前と同様に多くの方が来校できる機会を設け、地域ボランティアを開催する

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

平山委員：ボランティアについては夏祭りや地域行事などのイベント案内を学校へ連絡して、参加者の募集をしたい。今後は案内を待つのでなく、学校から様々な団体に学生ボランティア情報を下さいと発信しても良いのではないかと。コロナ禍前に行っていた学校を解放したイベントを再開して、学生にとって良い学びに繋がれると良い。

小川委員：行事も通常通り開催できるようになるので、コロナ前に学んだことややり方を活かしていきながら、新たな取り組みや地域貢献で現場とのより良い関係を作れると良い。

小山田委員：コロナ前は学生が運動会のボランティアなどに来ていたので、お願いではなくお知らせしていきたい。

茂呂委員：ボランティアはどこまで学校に依頼をしてよいか悩む部分でもあるので、学校からの発信が重要だと感じられる。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・コロナ禍前の運営と同じ状況に戻していくことが求められる。
- ・卒業生支援を継続的に行っていくと同時に、ボランティアなどにも繋がれるように生徒への発信も必要。
- ・産学連携活動は、生徒へ案内ができるように体制を整えることが必要。
- ・ボランティアやイベントの実施はコロナ禍前と同様の案内を行っていくことが必要。
- ・現場を意識した教育に取り組んでいくことが重要。